

## ～タイのフードデリバリー市場について～

こんにちは。鳥取県東南アジアビューローの辻です。

先月は、タイの EC 市場についてお伝えしましたが、その中でも順調に成長を続けているのが、フードデリバリー市場です。今回は、タイにおけるフードデリバリー市場についてお伝えします。

### <タイのフードデリバリー>

タイでは、スマートフォンアプリ（以下「スマホアプリ」という。）を使ったデリバリーサービスが流行する以前から、大手ファーストフードチェーンなどはそれぞれが独自に電話や WEB サイトで注文を受けデリバリーサービスを行っていました。

その後、2010 年代中頃にフードデリバリーのスマホアプリが登場すると、チェーン店以外のレストランや食堂、屋台などにも手軽にデリバリーを注文することができるようになりました。

2020 年に新型コロナウイルスの感染拡大防止のための活動規制によって、在宅勤務の実施、飲食店での店内飲食禁止が実施されると、フードデリバリーの利用件数が急増し、バンコクの道端にはフードデリバリー各社のユニフォームを着たバイクの配達ライダーが溢れるようになりました。



激しい競争を繰り広げるフードデリバリー各社

タイの商業銀行大手カシコン銀行傘下のカシコン・リサーチ・センターの調査によると、2021 年のフードデリバリーの市場規模は、前年の 448 億バーツ（約 1,492 億円<sup>※</sup>）から 18.4～24.4%増の 531 億～558 億バーツ（約 1,768～1,858 億円<sup>※</sup>）に拡大すると見られています。

興味深いことに、注文件数は新型コロナウイルス流行前の 2019 年の 3,500 万～4,500 万件から 2.7～3.4 倍の約 1 億 2,000 万件に増加する見通しに対し、注文 1 回当たりの平均価格は前年から 20～25%減少しています。

このことは、在宅勤務をする人が増え、以前に比べてより普段使いする（＝日頃食べている食堂や屋台レベルの注文をする）ケースが増えたことを示していると考えられます。

（※「1 バーツ＝3.33 円」で算定）

## ＜タイの主なフードデリバリーサービス＞

名称	 food panda	 Grab Food	 LINE MAN	 Robinhood
サービス開始年	2012年	2018年	2016年	2020年
登録店舗数	12万店以上	8万店以上	20万店以上	5万5千店以上
特徴	2012年にサービスを開始した草分け的存在。2020年にはサービス対象エリアがタイ全土（77県）に達したと発表された。日本語対応有り。	タクシーの配車サービスの Grab が 2018年にフードデリバリーのサービスを開始。他社に比べて圧倒的に多いドライバー数を誇る。	タイで一番人気のメッセージアプリ LINE が運営。グルメ情報サイト大手「Wongnai」と提携しているため、登録店舗数は業界一。	タイ大手銀行サイアム商業銀行による運営。他社と比べ、初期費用や手数料がないなど、登録店舗事業者の負担が少ない。

※登録店舗数は各社発表のもの

タイのフードデリバリーは、新規参入、事業撤退、統合を繰り返してきましたが、現在の主な事業者は上記の4社になります。

「Food panda」は、現在残っているフードデリバリー事業者の中でいち早くサービス提供を開始し、業界で唯一全県（77県）でサービスを展開しています。

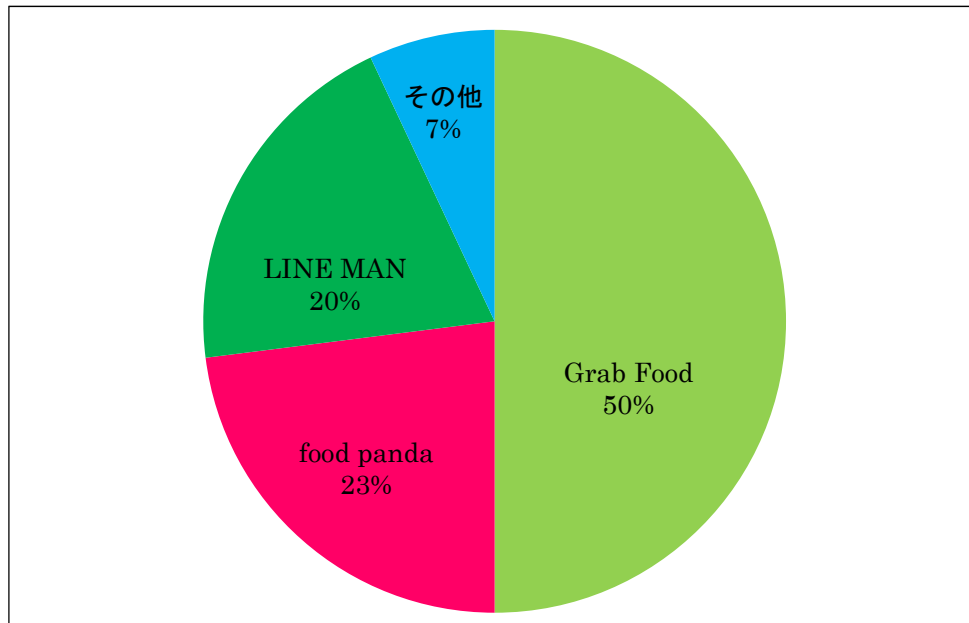
2013年にタイでタクシーの配車アプリサービスを開始した「Grab」は、2018年に買収した Uber の東南アジア事業を引き継ぐ形で、フードデリバリー事業に参入しました。元々、バイクタクシーの配車サービスをしていたので、ドライバーの数は他の大手三社の合計よりも多いと見られています。

日本でも多くの人に使われているメッセージアプリ LINE が運営する「LINE MAN」は、「タイのぐるナビ」ともいえるグルメ情報サイトの大手「Wongnai」と提携しているので、業界で一番多くの店舗が登録しています。前述の2社と比べ、登録店舗が支払う手数料が低めに設定されている反面、送料の設定が高くなっています。

タイ大手銀行のサイアム商業銀行が昨年7月にサービスを開始した「Robinhood」は、同行のデジタルバンキングを利用している飲食店が加盟でき、他社と違って初期費用や手数料がないため、登録店舗の事業者の負担がほぼゼロとなっていることが特徴です。残念ながら、対応言語がタイ語のみとなっているため、現地在住の外国人にとっては利用するためのハードルが高くなっています。

このように各社それぞれに異なる特徴がありますが、マーケットシェアは Grab Food が市場全体の半分を占め、圧倒的首位の座についています。

## 【フードデリバリーのマーケットシェア】



出典：Momentum Works

(<https://thelowdown.momentum.asia/food-delivery-in-south-east-asia-almost-tripled-in-2020-accelerated-by-covid-19/>)

## ＜フードデリバリーの問題点＞

順調に成長を続けるタイのフードデリバリー市場ですが、問題がないわけではありません。

店舗内の飲食と違って容器を必要とするフードデリバリーの市場拡大は、プラスチック容器の使用量増加につながり、その結果としてプラスチックごみの量が増えてしまう結果をまねいています。

また、価格の 30～35%といわれる手数料は、登録店舗の事業者にとって大きな負担であり、飲食店経営者の中には「売り上げが上がっても利益が削られるばかりでやっていけない」と、フードデリバリーアプリへの登録を解除する店舗も出てきています。

業界1位の「Grab Food」と2位の「food panda」は、激しい価格競争を続けており、両社ともに赤字経営が続いていると報じられています。

急激に増えた需要に対するドライバーの質も追いついておらず、配達の商品や場所を間違えたり、雑な取り扱いによって料理がぐちゃぐちゃになって届いたり、一方的にキャンセルされたりなど、クレームにつながるケースも増えてきています。そして、そのドライバーも、過去には低い賃金に不満を持った各社のドライバーが集まってデモ活動を行うなど、雇用環境の改善が求められています。

コロナ禍によって急速に拡大したタイのフードデリバリー市場、利用者にとっては低いサービス価格やお得なプロモーションはありがたいことですが、サービス運営者の赤字、登録事業者（飲食店）の重い負担、従業員（ドライバー）の労働環境と、三者が問題を抱えている状態が続いています。

今後は、過剰なサービス合戦を止め、利用者にも適正な負担を求めるなど、業界体質の健全化が更なる市場拡大への鍵になるのではないかと考えます。

## 東南アジア各国の新型コロナウイルス感染状況

国名		累計 (10/13 現在)	直近1週間 (10/7~10/13)	人口(万人)	10万人当たり
タイ	感染者	1,740,428	73,331	6,980	2,493.4
	死亡者	17,917	621		25.7
インドネシア	感染者	4,231,046	7,952	27,352	1,546.9
	死亡者	142,811	398		52.2
ベトナム	感染者	846,230	27,906	9,734	869.4
	死亡者	20,763	784		21.3
ミャンマー	感染者	481,230	8,205	5,441	884.5
	死亡者	18,188	190		33.4
マレーシア	感染者	2,353,579	59,122	3,237	7,270.9
	死亡者	27,525	649		85.0
シンガポール	感染者	132,205	22,401	585	2,259.9
	死亡者	183	53		3.1
フィリピン	感染者	2,683,372	70,323	10,958	2,448.8
	死亡者	39,896	1,068		36.4
カンボジア	感染者	115,335	1,632	1,672	689.8.9
	死亡者	2,544	126		15.2
ラオス	感染者	29,398	3,420	728	403.8
	死亡者	33	11		0.5
日本	感染者	1,711,935	5,260	12,648	1353.5
	死亡者	17,986	197		14.2

※人口は国連による推計、感染者数・死亡者数は世界保健機関から引用。

鳥取県東南アジアビューロー Tottori-Southeast Asia Trade and Tourism Bureau  
 担当：辻 三朗 Saburo Tsuji  
 Address : 1 VASU 1 Building, 12 FL., Room 1202/C, Soi Sukhumvit 25, Sukhumvit Rd., Klongtoey-Nua, Wattana, Bangkok 10110  
 T e l : +66-(0)-2-260-1057  
 Mobile : +66-(0)-86-358-7298  
 M a i l : [tottori@aapth.com](mailto:tottori@aapth.com)

【鳥取県東南アジアビューローの運営法人（鳥取県より業務委託）】

■アジア・アライアンス・パートナー・ジャパン株式会社 <http://www.aapjp.com/index.html>

タイを中心に、ベトナム・インドネシア・インド・メキシコにて主に日系中堅・中小企業様の海外進出や進出後の会計税務事務を中心とした運営支援業務を行っております。

【免責事項】

■情報の掲載内容には万全を期しておりますが、その正確性、完全性、有用性、適用性についていかなる保証も行いません。また、その利用により生じた被害や損害に関して一切の責任を負いません。

タイ王国及び他の東南アジア諸国の経済・産業動向、社会動向報告書

2021年8月

ワンページタイ経済

項目	単位	2018年	2019年	2020年	2021年
GDP 成長率	前年比 (%)	4.2	2.4	-6.2	2.5 (1～6月)
人口*	千人	67,869	68,021	68,152	68,161 (1月)
労働者の数*	千人	38,353	38,207	39,451	38,778 (6月)
失業率**	%	1.06	0.99	1.62	1.93 (6月)
最低賃金* バンコク	バーツ/日	325	325	331	331
チョンブリー		330	330	336	336
アユタヤー		320	320	325	325
ラヨーン		330	330	335	335
賃金：全国製造業の平均	バーツ	12,831	13,131	13,562	13,469 (6月)
インフレ率**	前年比ベ (%)	1.06	0.71	-0.84	0.74 (8月)
中央銀行政策金利*	%	1.75	1.25	0.50	0.50 (9月)
普通貯金率**	%	0.47	0.47	0.31	0.25 (9月)
ローン金利(MLR) **	%	6.32	6.29	5.60	5.42 (9月)
SET 指数*	1975年：100	1,563.8	1,579.84	1,449.35	1605.68 (9月)
バーツ/100円**	バーツ	29.26	28.48	29.33	29.07 (9月)
バーツ/米ドル**	バーツ	32.31	31.05	31.29	31.51 (9月)
円/米ドル**	円	110.4	109	106.8	108.5 (9月)
車販売台数 (1月からの累計)	台数	1,041,311	1,019,602	779,857	486,268 (8月)
BOI 認可プロジェクト	件数	1,469	1,500	1,501	801 (1～6月)
BOI 認可プロジェクト金額	10億バーツ	549.48	447.36	361.41	263.84 (1～6月)

\*...期末、\*\*...平均